

社地区 地域づくり懇談会 議事録

- 1 日時 平成25年1月24日(木) 19:00～20:50
- 2 会場 社地区公民館
- 3 出席者 地元出席者 32名
市側出席者 20名
竹内市長、深澤副市長、羽場総務部長、松下企画推進部長、井上福祉保健部長、山根農林水産部長、大島都市整備部長、藤井都市整備部次長、江本教育委員会事務局次長、久野中山間地域振興課長、富山危機管理課参事、塩谷秘書課課長補佐
＜用瀬町総合支所＞中村支所長(司会)、田中副支所長、金谷市民福祉課長、太田産業建設課長、磯部地域振興課課長補佐、
＜事務局＞安本協働推進課長、谷村協働推進課主任、岡田協働推進課主任

4 「地域防災計画の見直し」について

スクリーンに基づき説明(危機管理課参事)

5 「協働のまちづくり」についての報告

(まちづくり協議会安全・環境部長) ※スクリーンに基づき説明

いきいき社まちづくりで、順調に進んでいる取り組みについて説明をさせていただきます。

有害鳥獣被害防止対策ということで、現在、社地区で防護柵の設置事業に取り組んでいるところです。これは社地区の平面図です。一部設置できないところもありますが、ほぼ社地区全体をカバーしています。赤く色をつけていますが、ここをワイヤーメッシュで囲んでしまおうということです。人家はワイヤーメッシュの中にすべて入っています。設置が難しい岩場とか急傾斜地、あるいは地区と地区が非常に離れている場合を除いた、約42.

5kmを計画延長といたしました。これを3年間に分割し、地区の皆さんからの要望を受けて毎年の延長を決定していくというかたちをとっています。設置事業は平成23年度から3年間で実施していきまして、今年で2年目になります。

設置にかかる費用等ですが、鳥獣被害防止総合対策交付金という、国と鳥取市から5/6の補助をいただいています。地元負担は残りの1/6ということになっています。まず、たいへん大きな補助をいただきまして、ありがとうございました。

ワイヤーメッシュは業者さんにこちらの公民館の裏手に持ってきていただき、それからの分配はまちづくり協議会で行っています。設置は地区の皆さんにさせていただいています。防護柵の設置は、計画の2/3が進んでいるところです。まだ2/3ではありませんが、



明らかにイノシシ等の目撃が減って、畑などへの被害も減ってきている状況です。常に農作物の被害に悩まされていましたが、設置したことにより安心して生活できているという喜びの声をいただいています。ひとつお願いですが、このワイヤーメッシュは高さが1.2mと、若干低いのです。シカなどは飛び越えてしまうということで、もう少し高いものがあれば、効果もより絶大になるのではないかという気持ちを持っています。

その他の取り組みとして、社区居民運動会を毎年6月の第1日曜日に行っています。少々の雨でも絶対に中止にならないという運動会でありまして、地区の中学生等にも役員として参加していただいています。2番目はいきいき社むらづくりということで、絵などの展示、バザー、芸能発表、出前講座などをやっていただいています。これはバザーの写真です。

これも鳥取市にたいへんお世話になりまして、洗足山の登山道をつけていただいたわけですが、整備は協議会でしています。これは今年整備を行ったときの写真です。そして、整備が終わってから登山会を行いました。下の2枚が登山会の写真です。37名のかたの参加をいただきまして、ちょうど頂上で写真をとりました。右の方は下山して「千賊鍋」を食べていただき、疲れを癒していただくという取り組みをしています。登山会の写真は、1月5日の日本海新聞に掲載をさせていただきました。

以上、順調に進んでいる取り組みについて説明させていただきました。

(まちづくり協議会調査・広報部長) ※スクリーンに基づき説明

課題、問題点があり、思うように進んでいない取り組みということで、市当局へのお願いを兼ねましてご説明をさせていただきます。

平成22年度にまち協が地区住民のアンケート調査を実施し、その後の検討会等で当地区の課題をあぶり出しています。ご多分に漏れず、少子高齢化をはじめ、過疎化の不安を抱えていまして、さらに独り暮らしの高齢者の急増、それから若者の地元離れに伴って、ますます地域内での人々の往来や集い、交流が失われてきました。地域の繋がりがたいへん弱くなってきている現状が明らかになり、とにかく人が集まって一体感、連帯感を強め、地域の絆を大切にすることが求められています。このことから、平成23年より、社地区公民館入居施設の1階の旧J A鳥取いなば店舗部分を地区住民の集いの場にしようということで、地域コミュニティセンターとしての活用はできないかと検討してきました。市長さんにも以前、ここを見ていただいていると思います。23年度より鳥取開発公社の中山間地域振興推進員さんの協力を得まして、具体的な内容等を検討しています。

(2) その他

① 社区居民運動会



② いきいき社むらまつり



③ 洗足山整備活動



④ 洗足山登山会



これが一番の問題でありまして、いままで検討してきました社コミュニティセンターの活用策を①から⑥まで上げています。まず公民館事務所兼まち協の事務所、これは何年も前からですが、公民館の事務所については2階に設置されています。現在、まち協も年寄りが大部分で、公民館を訪れるのも年寄りのかたが多いので、2階は不便だということで以前から公民館事務所を下におろしたいと市の方に働きかけているところです。まち協の事務所も下におろして一緒にやりたいということです。それから、チャレンジショップ、フリーマーケット、それからここに書いていますようにいろいろとやっていきたいということです。時間の都合で一々申し上げませんが、目を通していただきたいと思います。

社コミュニティセンター活用策

- ① 公民館事務所兼まち協事務所
- ② チャレンジショップ
 - ・フリーマーケット ・各種作品展示及び販売
 - ・豆腐、味噌、漬物等販売 ・介護用品販売
 - ・移動コンビニ等
- ③ いきいきバス停
 - ・いきいきバスの運行 ・乗合バス停
- ④ おしゃべりルーム
 - ・保育園児との交流会 ・おしゃべりと囲碁、将棋
 - ・会食サービスの場の提供 他
- ⑤ 中津美溪谷・洗足山ガイドセンター
- ⑥ 自販機コーナー設置

など

いま現在、いちばん問題にしているのは、この建物が昭和56年以前に建築されたようで、耐震調査の結果、耐震工事をやらなければいけないということになっているようです。跡地の活用事業も耐震工事が終わらないとやれないということで、いろいろと市当局にもお願いしているところです。できたら25年度ぐらいまでにはと思います。もう25年度になりますので、せめて26年度までには耐震工事を終え、我々の求めている店舗部分の改造が行える運びにぜひお願いしたいと思っています。きょうは市当局の皆さんがおいでになっていますので、なるべく早い時期に我々の計画をのせて、社コミュニティセンターが立派に活用でき、皆さんにここに集まっていただいて、新しい社地区の核にしたいと思っています。当局の皆さんにはぜひこの点を酌み取っていただき、よろしくご配慮をお願いしたいと思っています。

(支所長)

当社地区ではそのほかにいろいろ取り組みをされています。鳥取市では「中山間地域の宝」という冊子をこしらえていまして、社地区も結構いろんな取り組みが載っています。村づくりのまさに活力となる取り組みを行っている団体として、江波では江波三番叟保存会があります。それからここ社地区の洗足山遊歩隊もあります。屋住では屋住地域協議会。それからNPO法人十人十色。こういったいろんな団体があります。ほかに本日もおいでですが、フクシンプロジェクト鳥取おこしの会、それから岡集落の「やすらぐいなか宣言」で、地域の皆様の資源を生かした活性化の取り組みが社でいろいろなされていることをご紹介します。

6 地域の課題についての市長等との意見交換

一人～二人住まい高齢者家庭への生活支援や見守り対策について

一人～二人住まいの高齢者家庭が漸増し、無力感・厭世観につながる恐れあり。生活支援や見守り対策のほか、「生きがい」を見出す方策が要る。

構想としては、ゴールデン人材センター（仮）を作り、昔取った杵柄を活かし、次世代へ豆・野菜などの農業生産技術や味噌・豆腐・こんにゃくの製法など生活の知恵を伝承、

更には日曜大工、庭木の剪定、もしくは神事・仏事に至るまで身をもって指導する。

これらの実施に関しては、市の支援等の検討または援助等をお願いしたい。

<担当部局の所見等>

【福祉保健部・用瀬町総合支所】

ひとり暮らし高齢者等の見守り支援の取り組みとしましては、高齢者のみの世帯などへ緊急通報装置を設置する「安心ホットラインサービス」、ひとり暮らしの高齢者を愛の訪問協力員が定期的に訪問し安否確認などを行う「愛の一声運動」、さらに、地区社会福祉協議会や民生・児童委員と連携し、地域の福祉活動を推進する「となり組福祉員」などの活動を推進しています。今後も、地区社会福祉協議会や民生・児童委員、ケアマネージャー、ヘルパー、かかりつけ医などが情報を共有し、連携・協力できる体制づくりを進めてまいります。

また、本市では、高齢者の仲間づくりの輪を広げ、いきいきと元気に暮らすことができるような集いの場として、町内の集会施設などで、会話や食事などを少人数で実施する「ふれあい・いきいきサロン」の立ち上げに、市社会福祉協議会を通じて助成を行っています。年6回以上会食をされるサロンに年間2万円助成を行っていますので、用瀬町総合福祉センターに申し込みください。

さらに、用瀬町総合支所独自の取り組みとして、ひとり暮らし高齢者や高齢者世帯の日常の困り事や話し相手に対応するため、ボランティア組織の用瀬町SOS隊を派遣しておりますので、総合支所市民福祉課へご相談ください。

【企画推進部・農林水産部】

高齢者の「生きがい対策」について、地域が主体となって構想をまとめられ、具体的な取り組みをされる場合には、総合支所・関係各課が連携し、協働して事業の推進を支援していきます。

具体的には、まちと村との交流などを通じて行う農作業体験交流や農産物等の加工品製造などに対する支援、地域の優れた自然や産物、継承している技や知恵などを活用しながら展開する、元気で活力ある地域づくりの取り組みに対する支援などが可能と考えています。

また、社地区公民館の耐震診断の結果、補強工事を行う必要があることが判明しましたので、これと併せて1階部分（旧JA支店部分）について、地域の皆さんと相談しながら必要な改修を行い、活動の拠点としていただけたらと考えています。

（福祉保健部長）

ひとり暮らしや老夫婦の高齢者世帯への生活支援や見守り対策として、現在、鳥取市で全般的に取り組んでいる主なものを幾つかご紹介したいと思います。

まず、ひとつには緊急通報装置があります。これは、独り暮らしの高齢者、あるいは老夫婦で心配な世帯に緊急通報装置を設置するものです。安心ホットラインサービスというもので、機器を通じて受信をするセンターがありますが、そのセンターには常駐で専門の看護師資格のかたが24時間詰めていて、連絡があればすぐ対応します。必要に応じて救急車の手配をするという事業を行っています。このほかにもひとり暮らしの高齢者宅を訪

問していただく愛の訪問協力員、それからとなり組福祉員、それぞれ地区の社会福祉協議会とか民生児童委員さん、こういったかたがたと協力をしながら地域での活動を推進しているところです。このほかにも、介護保険のケアマネージャーとかヘルパー、かかりつけ医、こういったかたがたと情報を共有しながら連携できる体制づくりを現在進めているところです。こういったところが見守りについての主な対応策といますか、状況です。

次に仲間づくりという点ですが、ふれあい・いきいきサロンは、皆様のお仲間、いろいろ趣味をお持ちのかた、あるいは目的を一緒にされるかたなどで、気軽に立ち上げていただくことができます。年6回以上は食事をしてくださいということはありますが、あとは皆さんの自主的な集まりにお任せするといったことで、市の社会福祉協議会を通じてその立ち上げの支援をしていますので、市の社会福祉協議会の支所にあたる用瀬町総合福祉センターに申し込みをしていただければと思います。市内全体ではいま、202のサロンが立ち上がってしまっていて、社地区では9サロンが立ち上がって活動をされています。活動は、歌や踊り、ゲームをされるといった内容です。

このほか、鳥取市の中でも最先端を行っているのではないかと私は感じていますが、用瀬町総合支所が独自で取り組んでおられることがあります。独り暮らし高齢者や高齢者世帯の日常生活の困り事に対応したり話し相手になったりするのための、用瀬町SOS隊という組織を立ち上げておられます。困っておられるかたをボランティアがお手伝いするということで、昨年12月に立ち上げられ、今年の正月飾りの取りつけとか電気設備の点検、ごみ出し、樹木の伐採、こういった活動に元気を出していただいているということのようです。どうぞ総合支所の市民福祉課へお申し込みをいただきたいと思っています。

(企画推進部長)

ゴールデン人材センターという構想を唱えておられます。いろいろ伝わってきた技術を次世代につなげていくのだということです。それによって高齢者のかたがたの生きがいを見つけていこうではないかということで、たいへんすばらしい発想だと思います。市役所におきましては、地域のかたがたが活力のある地域づくりに取り組んで元気を出していこうとされる場合には、いろんな支援や応援をさせていただいているところです。先ほどご紹介がありましたように、社地区においてもいろいろ活発な取り組みが行われているようですが、具体的に説明をさせていただきます。

具体的には、まちとむらの交流。たとえば鹿野町河内と湖山西地区の交流ですが、苗を植えるなどの交流によって、地域に人を呼び込んでおられます。また、河原の西郷地区、とても元気な地域ですが、ここに修立地区の子どもたちが来て田植えをするといった交流もしておられます。とても地域が活性化するというかにぎやかになる、このようなまちとむらの交流に対しても支援を行っています。また、この中にはみそや豆腐やコンニャクの製法など、加工品製造等に対する支援もありますが、これについては次のテーマで農林水産部長から詳しく説明させていただきます。

それから、地域のすぐれた自然や伝統、産物などを生かしながら、元気で活力のある地域づくりをされるときの支援です。例えば、岡集落の「やすらぐいなか宣言」の取り組み、それから江波の三番叟の保存継承活動とか、社の地域においてもいろんな取り組みがされています。こういうものについても支援をさせていただいているところです。

そこで、きちんと継承をしていこう、若い人につないでいこうというときには、これらの取り組みにもある程度の魅力というのが、やはり必要になってくると思います。幸いこの地域には、先ほど洗足山の整備をしてトレッキングコースがという報告がありました、市街地などから人を呼べる豊かな自然、里山とか古民家とか伝統文化といった素材、宝物がいっぱいあると思っています。今後、山菜でもいいですが、特色ある農産物とか加工品を皆さんと一緒につくられて、おいでになった人に金を落としてもらう仕組みは絶対に必要だと思います。やはり地域に潤いがないと長続きしないと思っています。儲ける仕組みというものをやはり考えていかなければいけないのではないかと、我々も思っているところです。それと、地域のまとまり、一体化ですね。地域のやる気です。先ほどありました西郷地区とか佐治とかは、地域が一体となって本当に元気な地域になっています。やはりそういう方向に持って行ってもらいたいと、我々も絶対に協力をしていきたいと思っています。

さて、先ほど課題として発表がありました、この建物です。地区公民館の耐震診断を23年、24年度と、全市的には全部で22館行ったわけですが、その結果、この建物も補強工事を行う必要があることが判明しました。今後、改修計画に入ります。そこで、1階の旧JA支店部分ですが、先ほど地域で検討されてきたことの発表があり、取り組みの拠点にしたい、コミュニティセンターにしたいということでした。そういうふうになりましたので、まずご報告をさせていただきます。1階に事務室をとということもありましたし、どんな公民館にしたいのか、またコミュニティセンターをどういうふうに使って、どんな取り組みをしていくのかということ、今後、工事までに地域のかたがたの意見を聞きながら、工事の内容と今後発展させるための取り組みの内容などを、同時進行で一緒になって考えていきたいと思っています。竹内市長から指示をいただいていますので、この会が終わったらすぐにでも総合支所を総合的な窓口にして、本庁の方からも参りますので、協議させていただこうと思います。これには皆さんのご協力が不可欠です。今後、地区公民館の整備に合わせて、この地域の活力が沸くような話し合いも行っていく計画を発表させていただきまして、説明を終わらせていただきます。

(地区会長)

コミュニティセンターについて、市長さんから力強いご指示があったということです。数年来の懸案事項ですので、これが大いに前進をするというところ、本当にうれしく思います。本当にありがとうございます。ただ、これから予算の策定とか工事の計画とか設計ということで、かなり難しい問題がまた出てくるだろうと思いますので、いろいろご指

地域資源を活用した取組のサポート

輝く中山間地域創出モデル事業

地域の資源(宝)を活かした活性化の取り組みを応援します。

【集落等の取り組み例】

- ・湧水広場などの整備活用
- ・ホタルの郷づくり
- ・ショウガなど特産品の開発
- ・耕作放棄地の活用(ホモロ養殖)
- ・ソバ栽培、ソバ打ち交流会
- ・三番叟の保存継承活動
- ・集落活性化計画の策定



「やすらぐいなか宣言」で心ひとつに
(用瀬町 岡集落)

6

導をお願いしたいと思います。

(竹内市長)

この建物の件ですが、これは何年来もの大変な課題であるということで、何年か数えてみようと思ったのですが、随分前からですのでなかなか数字になりません。先ほど企画推進部長がお話ししたように、耐震改修という問題が出てきたことで、結果的に取り組みが大規模にならざるを得ないし、それと同時に耐震診断の結果を見ながら、改修とあわせてというようなかたちで遅れてきているということがあるわけです。それゆえにしっかりやれよと、しっかり頼むよという声を会長さんからいただいたわけですが、これはもう必ず耐震改修とあわせて、社地区の拠点になる大事な施設として1階部分を活用できるようにします。いまでも野菜の集荷などにいろいろ使われているようですが、公民館が2階、3階という体制になっていますので、高齢化も進む中で、やはり1階を中心に使っていかなければいけないというのは間違いありません。おかげさまでJA鳥取いなばの部分も全体を使わせていただけるかたちになっていますので、耐震改修をして中も改装して、トイレとかこういったものを整備して使えるようにしたいという考え方でいます。できるだけ早くということはもちろんあると思います。

先ほど、利用の計画もだいぶんまとまってきたとお伺いしましたので、まちづくり協議会の重要な取り組みとして、またその他地域の諸団体がいろいろに活用できるような、公民館を活用されていますが、それと一体として使えるような、そういう多目的な交流の拠点としてのコミュニティセンター、名前はまた後でしっかり考えてつけていくことにして、そういうものにご活用いただけるようにしたいと思います。計画づくり等々が必要ですし、施設についてはご相談しながらということになります。

また、以前にも計画を立てて、相当高額な計画からいろいろ案をまとめられたこともあった経過がありますが、どういう内容のものにするのか、いまの時点、地点に立って、有利な財源など使えるものがあれば使うといったことも含めて、一緒に考えていきたいと思えます。あとは具体化のための話し合いとか手続とか、予算化といった段階になってくるので、耐震改修の取り組みとあわせてしっかり取り組みたいと思えます。改めて申し上げておきたいと思えます。皆さん、またどうぞよろしく願います。

(地元意見)

先ほどのご説明で、輝く中山間地域の創出モデル事業をご紹介されましたが、実は当岡集落も平成22年にモデル地区に選定され、平成23年に実行をしてきたわけです。その計画段階では3カ年計画を立てていたわけですが、残念ながら1年だけで鳥取市さんからのご支援が得られなくなったということがあります。その事業を継続していくためにも、できることなら継続したご支援がいただけるような仕組みを構築していただきたい。そうすれば長続きし、さらに進んでいくのではないかと思いますので、よろしく願います。

(企画推進部長)

元気な取り組みをしていただき、ありがとうございます。これは10/10、全部お任せくださいという補助ですが、いまのところは1年の補助だということです。こういう取

り組みを市内の各地域に広げていきたいというのが我々の趣旨でして、それで勢いをつけてもらって、あとは地域が元気よく、自分たちで継続してやっていこうと思っていただくということをお願いしたいところです。承ってはおりますが、いまここでどうこうということがなかなか言えませんので、ご容赦願いたいと思います。

(地元意見)

先ほど独り暮らし、二人暮らしの高齢者のことを言われましたが、江波は特に高齢者が多くて、この間も中山間地域振興推進員のかたが独り暮らしと二人暮らしの家を回られました。私は今年区長させてもらっているんで、おられないところがあったがどうしようかと言われましたが、内容はといたら秘密でそれは言えませんということでした。先ほど救急車を呼ぶとか何か言われましたが、そういう対策は考えておられるのですか。それを聞きたいのですが。

いまは、民生委員のかたが声をかけたりしています。この前ちょっと聞いた話では、若い人は働きに出ているし、年寄りが日中、独りでいるときにはどうしてもらえらるだろうか、どういう対策を考えておられるのかなと言われていたので、それも含めて聞いてみたいのですが。

(福祉保健部長)

先ほど、安心ホットラインの緊急通報についてご説明いたしました。基本は家族の構成そのものがお独りとか老夫婦だという場合ですが、若いのかたが昼間お勤めに出られて、家の中に残っておられるのは高齢者のかただけだという状況でのお話だろうと思います。その点については、大抵の家がそういう状況だろうということで、私どももそれについての対応はまだできていないというのが現状です。主にそういった状況のかたについていま進めているのは、災害時要援護者というものです。隣近所のお二人ぐらいに協力員になっていただいて、避難をするようなときには助けてもらったり、日々も状況を把握しておいたりしていただきねということです。特段、救急の手配をしたりとか、そういったところまでの準備はしていませんが、隣近所のご協力、あるいは民生委員さんや愛の訪問協力員さん、あるいはとなり組福祉員さん、こういったかたのご協力で日中は過ごしていただきたいと考えています。

ふれあい・いきいきサロンについては、皆さんが集まる、仲間づくりということで助成をしていますが、なかなか家から外に出づらいというかたも中にはおられると思います。もし、出かけることが可能な体力のかたは、こういったところで一緒に日中は過ごしていただければということもありますので、ご紹介いたします。

(市民福祉課長)

江波の集落は大変高齢化が進んでいるということで、私も気にかけているところです。先日、江波のサロンの方にも出かけまして、何か困ったことがあれば相談をさせていただきたいという話もしていますし、サロンに出てこれない高齢者のかたにもサロンに出てくるようにという話もしているところです。

それと、先ほど福祉保健部長から話がありましたが、用瀬町SOS隊というものがあります。特に雪が深いところですので、困っているところは皆さんで助け合って、それでも

まだ足りないところはSOS隊に声をかけていただいたら、応援部隊を10人でも20人でも派遣して、協力しながらやっていきたいという話もしています。区長さんは今年度初めてですが、今後とも連携をとりながらやっていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

(地元意見)

お礼を申し上げたいと思っています。といいますのも、この会館はJAが持っていたわけですが、JAの改革により不用になったものですから、社が合併前に積み立てていたお金でこのJAの1階部分を購入しました。竹内市長さんにもここでお願いしてから長いことになっていますので、それで、どうなっているのかな、もしまだ検討しておられるのなら、きょう要望しようかなと思っていました。が、聞いていますと部長さんからも、竹内市長さんからも、もう早急にやるということでしたので、安心しました。あまりにも長いものですから、どうなっているのか、支所長にも市に早くやってもらうように要望してくれと、この前言ったような次第です。

それで、耐震補強を兼ねて1階の改修もやるという説明でありました。その耐震の方の計画もあるでしょうから、早急にと言われましたが、具体的に何月ごろか、そのことがはっきりわかればお願いしたいと思っています。私はやっぱりこのことが一番関心といいますか、心配している事項です。

(企画推進部長)

なにぶん2館もの耐震診断をしましたので、いまはまだ予定で、確定というわけではなくてたいへん申し訳ないのですが、ただ、放っておけるものではありませんので、これからその協議に入ります。先ほど申しましたような改修の内容とか、これからの元気の出る取り組みの内容とかをずっとお話をしまして、いまの予定では6月議会ぐらいに設計の補正予算を出せたらなと思っていますところです。それで設計ができて、その次の年度には工事にかかれますので、最短で26年度に工事ができればという気持ちでいます。

(地元意見)

ぜひとも来年中には必ずやるということで、26年度中にはお願いしたいと思います。

(竹内市長)

大変お世話になって、この件は上手に運んでいただいたように思っています。もう数年も前になりますが、初めはかなり高額の使用料をJAさんに払わないとできないかなと思って、何とか安くならないかという話をしていましたが、この社の地域で取得して、市の方に寄附をしていただくことになりました。そういうことで、大変いいかたちだと私は思っています。

もちろんいまからでもいいのですが、25年度がまさにこの計画を練り上げる、話し合いの重要な年になります。そして、26年度の予算でということです。耐震改修もあわせてなので耐震改修の設計も要りますが、それとあわせて事業を実施しようということです。もうちょっと早くならないかなという気持ちは私も一緒ですが、やはりこの建物はかなり大きくて、耐震改修も相当に実施設計をしてかからないといけませんし、お金もかなりか

かるようですので、そういう中では1階部分も一緒にやるのが工事としては最も合理的だということです。工事は26年度になります、25年度というのが計画づくりや設計に出す時期になります。6月の補正予算を予定していると部長も言っていましたから、そういう意味で、話し合いをする重要な1年だということです、よろしくお願ひしたいと思ひます。ここの部分を強調しておきたいと思ひます。

現在でも使つていい状況にあるわけですから、先ほどから野菜などの集荷に使つておられたり、もちつきをされたりということは聞いていますが、そのほかにもいまの状態で使える部分は使つていかれたらいいと思ひます。耐震改修ができなかつたら使つてはいけないうものでもない、地域の中で合理的な範囲でお使ひいただくようなことを支所と相談してもらつて、まさに地域のために使つて、盛り上げていただけたらと思ひます。さっきも例に挙げていたふれあい・いきいきサロンも、ここにひとつあればみんなが便利だと、集まりやすい場所だということであれば、年6回以上ということですから、月1回でも開いてもらえば補助金も出ます。これは社協の方ですが、そういったことで有効活用もできようかと思ひますので、いろんな意味で有効利用をしていただきたいと思ひます。

ただ、寒い時分は十分に暖まらないかもしれないと思つたりしますし、利用にもある程度の制限はあると思ひますが、いまの段階でも特に季節のいい頃にはいろいろにお使ひいただけたらなという気持ちでいます。

(地元意見)

この地区公民館が3階建てで大きいのは事情があります。合併前に鳥取ダイヘンの拡張のために町の指導でJAが1階に入り、3階建てになってしまったわけで、その点もひとつご理解を願ひたいなど。ほかの地区公民館で3階建てはあまりないということも聞いていたので、そういうことが影響して遅れているのかなという心配もありました。JAももう関係ないことになりました、市に寄附しましたので、その辺もご理解を願ひまして、よろしくお願ひします。

里山の伐開策、遊休農地の活用策について

休耕田・耕作放棄地が増え、はては里山の荒廃が進んで、有害獣がはびこる。防護柵の補強・メンテナンスのほか、里山の伐開策、遊休農地の活用策が要る。

構想としては、希少作物による産業の6次化であり、元気な中高年のパワーを活用して、里山の手入れ(山林の下刈り程の軽作業)のほか自然薯、黒豆、こんにやくなどを、生産・加工・販売する。前記とも絡め、豆腐など定期的に製造し宅配を目指す。また、里山の伐開対策で出た木材を利用した薪炭を作り、販売を目指す。

これらの実施に関しては、市の支援等の検討または援助等をお願ひしたい。

<担当部局の所見等>

【福祉保健部・用瀬町総合支所】

地域の特産品の開発、加工、商品化等については、特産品づくりのための研修会や生産のための加工機械器具導入を支援する「特産品生産等むらづくり支援事業(補助率2/3、上限50万円)」が活用できます。また、生産のみならず自ら加工、販売等を行う6次産業化に取り組む場合は、「とっとり発!6次産業化総合支援事業(補助率1/2)」

といった事業を活用していただけます。また、里山林の広葉樹（クヌギ、コナラ）を薪、薪炭の他、シイタケ原木等として利用する活動等を支援する「森林・山村資源利用交付金事業（補助金300万円上限）」が新設される予定ですので、計画をとりまとめられ、具体的な取り組みをされる場合には、総合支所産業建設課・農林水産部農業振興課・林務水産課にご相談ください。

（農林水産部長）

私どもとしては山村の森林や里山、農地を守るための活動は本当に重要なことと考えております。社地域の活性化ばかりではなくて、先ほどもご紹介がありましたまちとの交流といいますか、こういうことで鳥取市民の生活の豊かさにもつながるのではないかと考えて、取り組むべきではないかと思っています。それで、課題は2点あります。

まず地域の特産品の開発、加工、商品化についてですが、特産品づくりのための研修会、それから生産のための加工機械器具導入をする場合には、これは地区、集落、加工グループで取り組んでいただく場合ですが、鳥取市単独での補助事業を設けています。2/3の補助率で上限50万円ではありますが、こういうものを活用していただくようになっていきます。また、これは主に農家のかたが取り組む場合ですが、少し規模を大きくして生産から販売までを行う6次産業化の場合には、県と市で予算組みをしています、「とっとり発！6次産業化総合支援事業」というものがありまして、こういうものも活用していただけるのではないかと考えています。

2つ目の里山林の関係です。これについては広葉樹、主にクヌギ、コナラを薪にしたり薪炭にしたり、それからシイタケ原木などに利用するという活動を地域で取り組んでいただく場合に、国の方がそういう取り組みを後押ししようということで、平成25年に新たな事業を考えておられます。回答には金額等を書いています、新しい事業ということで、まだまだ具体的な中身についての詳しい情報が来ていません。こういう情報は私どもでしっかり収集して、また皆様にご紹介し、情報提供しながら、どういうやり方ができるのか、どういう活用の仕方ができるのか、こういうところをご相談していきたいと考えているところです。とりわけこういう事業を活用するに当たりまして、まずは地元の方でどういう取り組みをしようかという計画を立てられるとき、それから具体的な取り組みを考えられるときには、総合支所とか農林水産部の農業振興課、林務水産課に、事業をどのように仕組んで活用していくのかということをご相談していただけたらと思います。

（地元意見）

特産品を云々というところがあります。以前から、私は個人的には黒豆を休耕田にたくさんつくっていただいて、それによる豆腐とか何か加工品で特色づけたらと感じていますが、その程度で特産品ということになるのかどうか。我々がひとりよがりで作ったものが特産品とは言えないだろうと思いますし、この特産品の定義といいますか、自称でいいのか、何か公的な定義があるのか、その辺のところは疑問ですので、お願いします。

（農林水産部長）

24年度に特産品の事業を活用してやっておられる地区が5地区あります。その中では、いまはショウガブームですが、ショウガのパウダーとか、ナシとショウガを使ったジャム

の開発とか、それからショウガの種を導入されるとか、そういう取り組みをやっておられます。特産品と言いますと、イメージ的にはすごいものだということもありますが、実際にはその地域で、いろいろな作物について工夫される取り組みということでありまして、大それた考え方ものではありません。地域でしっかり取り組んでいただければ、この事業を活用していただけるということです。

(地元意見)

半ば独善でいいということ。

(農林水産部長)

はっきり言いますとそうですが、地域でしっかり取り組んでいただくことがやはり大事だと思います。

7 市政の課題についての意見交換（フリートーク）

(地元意見)

先ほどしゃべられたかたは江波で、私は屋住です。この安蔵の谷というのがここから江波まで、8 kmか9 kmあるのですが、きょう来られている市長さんはじめ、こちらの谷に来たことがあるかたはおられますか。来てどう思われましたかね。よくこんなところで生活すると思われるのではないかと思います。僕は生まれて50年近くここにいるのです。ここから4～5 km先ですが、本当にいいところではないのです。生活がしにくいところですよ。

何が生活しにくいかというと、まず一番は交通の便。今回、新交通システムになって、その会合にも出させてもらっていろいろ意見を言わせていただき、良くなったところもあります。以前は中学校の子どもは、夏場は部活が遅いのでよかったのですが、冬場は部活が早く終わっても、6時10分のバスまで寒い中を1時間ぐらい待っていました。いまは待つ時間が少なくなり、だいぶ助かっています。ただ、まだまだ不便なバスです。ノルデ運動のチラシもきょうの資料にあります。うちの辺は全然乗れない状況です。もちろん鳥取とのバスの便が増えて便利にはなったのですが、そこに出るまでの便がないのです。JRが社駅を7時16分に出るのですが、これに乗るバスがありません。バスで通勤、通学したら、またちょっと変わってくるかもわかりませんが、JRを利用するために保護者が毎日朝晩送り迎えをしています。僕たち夫婦が迎えに出られればいいのですが、なかなか出られなくて、おじいちゃん、おばあちゃんに頼んでいる状況です。それから僕も本当は仕事が終わって軽く飲んで帰りたいと思うのですが、JRで帰っても、その時間にはここまでのバスはありません。大人はいいですが、できれば高校生がJRを利用できるようなバスの便を検討していただきたいと思います。また、バスの小、中学生の定期券が有料になりました。もちろん有料で結構なんですけど、土日の部活にはバスが動いていない状況で、でも土曜日はほとんど部活があります。これも中学校まで毎日送り迎えをしている状況です。いま、最終便などはワゴン車でバスの代用をいただいているのですが、その辺をうまく利用して、もう少し利用ができるようなことをお考えいただいたら助かるのですが。

それからもう1点。今年はまだ雪が少ないのですが、除雪です。本線というか県道は除

雪してくれるのですが、うちから県道に出るまでのところが山になって出られない状況です。除雪車もないので、うちは去年大金をはたいてトラクターに雪掻き機をつけて、それで家の前などを掻いているという状況です。もちろん家の前とかもう全部ということではありませんが、車が通る道路のところも雪が山になって、その県道までが出られない状況なのです。除雪のときに道路のところだけあけていく。子どもが乗るバス停のところはきれいに掻いてくれて助かるのですが、車が県道まで出られない状況が何度もありますので、その辺のところも考えていただけたらなと思います。

(竹内市長)

南部地域のバスの実証運行ですが、全体として乗り継ぎ拠点をつくりながら、これもまだ完全に完成していないのですが、用瀬駅の周辺で乗り継ぎ拠点もつくって、あと、枝線というか、支線となるところのバスの運行をしています。また、智頭から出てくるバス、あるいは智頭の方に向かうバスをご利用になるかたも社地域ではあるかと思いますが。いずれにしても、詳しい状況については支所長さんが十分に把握しながら、こういうふうに変えたらいいなという意見を必ず市の担当課の方に話してもらえるように思います。いま言われた中学校の皆さんが大変苦勞されるという話、土日の話、ノルデ運動といいながらなかなか乗れないという話を頭に入れて、具体的な対処が一步でも二歩でも進むようにしたいと思います。

いまの公共交通のシステムを取り入れていい点は、先ほどの江波地域の地域性の話がありましたが、かなり離れた、奥に入っていく路線の場合も200円均一料金にしているということが一つあります。それからもう一つ、谷の奥から直接鳥取駅まで出るのではないので乗り継ぎはちょっと大変かもしれませんが、53号の幹線で乗り継ぐことによって早く駅に着けるとか、効率よく全体としての運行ができて、とかく赤字がかさむのでバスの便数を減らしますよと言われる状況を少しでも改善してきました。そういう2点があります。

用瀬の地域では、支線の均一料金と、乗り継ぎをすることによって鉄道との連絡ができたり、あるいは53号線をいわば快速便のようなかたちで便数も多くなったりしている、これがメリットです。デメリットもいろいろあるし、まだまだ問題点もあろうかと思いますが。私としては支所長がいまの話聞いてどう思われたか聞きたいこともありますので、私も質問者になって、あまり長くなく話していただければと思います。

(支所長)

実は、私は2年前に交通政策室長をしていましたので、この交通には深くかかわっています。非常に気になるものですから、先立っての用瀬地域審議会で、今後の交通をどう考えるのかということで、交通政策室を呼びました。市長も言われましたが、メリット・デメリットはいろいろありますが、実証運行という名を掲げている以上、取り入れられることは取り入れるというスタンスでいるようです。

それからこの前報告を受けたのですが、新たに予約型ではありますが、美成、あるいは古用瀬、家奥、こういった辺にも小さいバスを入れようかという提案もあります。交通政策室もいろいろ考えています。現在も屋住はもちろん行っているのですが、川中、それから赤波、江波までがどれだけ乗っても200円になりました。いい点もあります。全部

取り入れるというわけにはいかないかもしれませんが、できる限りこの実証運行期間中に皆さんのご意見をお伺いして、総合支所として責任を持って本課につなげてまいりたいと思いますので、ご理解をお願いいたします。

(都市整備部次長)

除雪については全域のかたにお願いしているのですが、通勤、通学に間に合うように道路の本線を重点的に除雪していきまして、その関係で支線の方から出られる車とか、それから各家の車の出入り口の雪かきまで手が回らないという状況です。これを丁寧にやりますと、その分除雪時間がかかるということで、通勤、通学に間に合わない状況も発生します。基本は、道路は一生懸命除雪しますので、道路に出るところについては皆さんの協力をお願いしたいと思っていますので、よろしくお願いします。

(竹内市長)

県道に出るために市道から出ようとすると、雪が山になっていると。

(地元意見)

自分のうちから出るのは仕方ないと思うのですが……。

(都市整備部次長)

県道はほとんど除雪されています。市道はすべて除雪しているわけではないですが、市道を除雪している場合には、県と市でルールを決めています。市道から県道に出られないようなことがないように雪を排除するというルールを決めていますので、そういったところは多分スムーズに出られると思いますが、除雪路線でない市道については県道の除雪だけになりますので、先ほど言いましたように、出られるときには協力をいただいております。

(地元意見)

再度ですが、市道から県道に出られない状況です。県道は掻いてあっても市道の雪を掻かないと、人力では大変です。そこでトラクターに雪掻き機をつけて自分の家から持って行って雪をかいて出ているという状況なのです。わかっただけですかね。家の前に雪がある、自分の車庫から車が出ないという状況ではないのです。

(都市整備部次長)

市道はすべて除雪しているわけではないのです。その場合にはホームページや市報等でもお知らせしていますが、小型除雪機貸与というかたちがあります。手で押して除雪する機械がありますので、これを集落単位の対応になりますが、市の方に申し込んでいただければ、それを使って市道の部分を地域のかたで掻いていただくことをお願いしていますので、ご利用いただけたらと思います。

(地元意見)

うちの部落は大きく4つに分かれていきまして、下3つは除雪機があるのですが、一番奥

のうちの村だけ、除雪機が配備されていないのですよ。要望でも出していますが、もう要望を出してもそれは通らないと言われました。なので集落で買うしかないなということですが、集落で買おうと思ったらなかなかみんなの賛同が得られないので、もう待てなくて、自分でトラクターに雪掻き機をつけて使っているという状況です。

では除雪機の方は再度要望で上げさせていただきますので、よろしくをお願いします。

(支所長)

すみません、たいへんなご苦勞をおかけしています。再度申請をしていただきますようお願いいたします。

(地元意見)

今年息子が成人式を迎えました。鳥取市の成人式に出るということでいろいろ動いたのですが、後になって同級生の親から聞くと、時間ぎりぎりに入ると、満席で会場に入れなかったと。出席はしたが、どこに行ってもいいかもわからずに、結局会いたいと思っていた友達にひとりも会えずに帰ってきた子もいます。うちの息子は、友達と相談して、そういうこともあるよと聞いていたもので、もうはなからやめとくわということでした。集合写真があるのかと聞くと、それもないと。八頭町はもともと3町ですから少ないというのがあるのかもわかりませんが、郡家、船岡、八東で集まってそれぞれ集合写真を撮ったそうです。自分の経験からいっても、記念に残っていくということがあります。そういうのが地域のまとまりというか、地元に対して根づいていこうという気持ちにもなるのかなと。今回、息子とも話をし、お父さんのときは用瀬町でやって集合写真があったのにな、みんなと楽しく話ができたとということもありました。やはり鳥取市に合併になってちょっと寂しいかな、というのが正直な気持ちです。だから、1カ所でやられるのもいいでしょうが、そういうことができないということであれば、用瀬町というわけにはならないにしても、南なら南で分けてやるとか。一極集中ではなしに、地域というかたちも設けていただいているわけですので、そういうところでも市の方で管理をしながら分割してやってもらうとか、成人式だけではなくて、地域を生かすということであれば、そういうかたちでの方策もいろいろ検討していただけたらなと思います。

(竹内市長)

いまの成人式についてのご意見ですが、これまでもそういったご意見も伺っていただき、我々もいろいろ考えてきたわけです。まず、会場に入れられないというのは、実際は入れてもあまり入ろうとしないというところがあったり、前の方の席はなかなか座りにくいわけで、空いていると呼びかけてもなかなか入ってこなかったりということがあります。それから、新成人はだいたい2,000人を超えるぐらいの数ですが、その中で来られるのは1,800人ぐらいです。梨花ホールの定員が2,000人ぐらいなので、そんなに余裕はないのですが、実際には入れる会場を用意しているという事実はあります。

それで、あまり長い時間にしないで、それも午後の1時ぐらいからですかね、2時かな、要するに2時から3時ぐらいの時間帯を中心にやりますので、だいたいはその後、グループや友達同士で分かれてどこかに出かけたり、あるいは地元の町に戻って人と会ったりしています。そういうこともできるように、あまり遅くまでやってないということです。午

後の早い時期から始めて、2時、3時ぐらいまでには終わっていますので、そういうことができます。

それから、以前は早く来られるかたのために梨花ホールのほかに小ホールも開けていました。そこで中学校ごとの集合写真などを撮ってもらったらいいなと思って部屋を確保して誘導したこともあるのですが、あまり揃わないのですね。結局うまくいかないということでした。中には独りでぼつんとしている新成人もいないわけではないのですが、友達同士は携帯電話などで連絡をとり合っていて会っている事実がありまして、大概がグループで固まって、5人から15人、20人ぐらいのグループになってわあわあ言って楽しんでいて、どこかに一緒に出かけたりしているというのが実態です。

中学校ぐらいの単位での集まりも非常にいいのですが、高校は各地域からばらばらにやってきましたから、別々の地域から高校に通った友達同士で集まっているという事実も見受けます。だから、まとまって1カ所でやるのも悪くはないと思います。その後にそれぞれ地域、あるいは中学校などの単位で、別に同じ日に組み立てるということもできます。正月の3日にやっていますから、それだけの時間的余裕はとれるかたちで行っているつもりです。そういったことについてももう少しいろいろな意見も聞いて、できるだけ子どもたちが喜ぶ、満足感の高いものにしたいと思います。集合写真なども、写す場所をそれぞれの地域ごとで決めて行うこともできなくはないと思います。用瀬について行うこともできようと思います。

今後のあり方として十分参考にさせていただきたいと思います。ただ1カ所に集まった成人式というのもそれなりのメリットもあると思います。どこの都市でも大体1カ所でやっていますので、鳥取市の新成人として、鳥取で成人式を迎えたということでのかたちとしては考えられるのではないかなと思います。

8 市長あいさつ

きょうは特産品づくりと、それからひとり暮らしの高齢者の生活支援等々のお話がありました。いろいろなかたからご意見をいただきましたし、江波の集落でひとり暮らしの皆さんの生活をどのように支えるかという問題提起もいただきましたが、緊急通報装置をつけるということもあろうと思いますし、これからは新しい技術なども生かしたいろいろな方法も出てくるかもしれませんが、私は個人的には、一番の解決方法としては人が集まって、グループで活動することだと思っています。ふれあい・いきいきサロンのようなかたちのものが、この社の地域で9つあるそうです。鳥取市全体では202グループですね。社の地域が決して少ないとは思いませんが、集落が16集落あるわけなので、もっとあってもいいし、同じ集落の中でも先ほどの屋住の例のように、固まりが下とか上で分かれているようなところだと、それぞれ気の合った者が集まりたいわけですから、別々につくる手もあります。ほとんど制限や制約がありません。10人以上であれば1グループできます。地域の中の集落の集会所でもいいですし、別にどなたかの家で順番で持ち回りでとか、そんなことでもいいわけなのです。日常的な安否の確認も含めて、寄り合いを持つとか、サロンのかたちなどでつながりをもう1回呼び戻していただけたらと思います。

いろいろな課題があると思います。きょうは通学の話は出ましたが、中学校の統合は話が出ませんでした。新たに千代南中学校として、佐治の中学生も一緒になって、新築の中学校が今年のうちにはできます。4月の開校時点では、少なくともまだ一部はプレハブ

でやらなければいけません、新しい建物の工事が今年のうち completion すれば、それで安心して多くの子どもたちが、にぎやかに活動することになると思います。こういった大きな取り組みもあります。

それからもうひとつ今回出なかったお話は、鳥取市庁舎の整備です。この問題についても、いつまでも時間をかけて議論ばかりしてはいけないということがあります。この段階になりましたから、できるだけ早く専門家の意見などを十分踏まえて、市民の皆さんの意向も十分考慮して方向づけをしたいと思っています。皆さんには、市報とか新聞とかでこれから流れてくる情報などについてぜひ注目していただいて、また自分はこう思うといった意見をお寄せいただけたらたいへん幸いです。地域審議会の方でもまた取り上げていただいて、ご議論いただけたらと思います。皆さんにとって一番使いやすい、そして長く使えるしっかりした新しいこれからの庁舎のあり方、これを専門家によって議論していただいた上で方向づけをしたいと考えています。そのことも一言触れさせていただきたいと思います。

今年是这样して穏やかな正月を迎えているわけですが、まだまだ寒い日が来たり、インフルエンザがちょっとはやっていたりする状況もありますので、ぜひ皆さん一人一人が健康に留意されて、暖かく過ごせるように心がけていただきたいと思います。また、皆さんが困ったなと思われたときは、用瀬では身近に SOS 隊もできて活躍をしておられます。我々としてもこの取り組みなども大変評価をしまして、こうした取り組みが各地域で行われることを願っていますが、用瀬の地域は先駆けてやっておられるので、非常に心強く思っています。支所の職員も必要に応じて地域の課題に、地域のために汗をかく覚悟でやっていますので、どうぞいろんなことをご相談していただけたらと思います。

以上で私からのごあいさつとさせていただきます、本日の社地区の地域づくり懇談会を終了させていただきます。どうもありがとうございました。